生活協同組合
コープあいち

© やなせたかし

サステナビリティレポート2018

2020年ビジョン コープあいちのありたい姿

豊かな自然の恵みと地元の産業を大切にし、
安心してくらし続けられるまちづくりを協同の力ですすめます

2020年にコープあいちのありたい姿である「2020年ビジョン」。そこで示したのは3つのめざす方向です。

ひろがるコープ
誰もが加入でき、利用できるコープになって地域に支持される存在をめざします

つながるコープ
地域の一員としてくらしやすい地域づくりをめざします

役立つコープ
笑顔があふれ、「コープがあって良かった」といわれるようなコープをめざします

2020年ビジョンがめざす、安心してくらし続けられるまちづくりのために…

それぞれの地域の特徴を踏まえたまちづくりを協同組合の基本理念である「相互扶助」、組合員と住民の協同によってすすめるために「コープあいち福祉政策」を策定しさまざまな取り組みをすすめています。

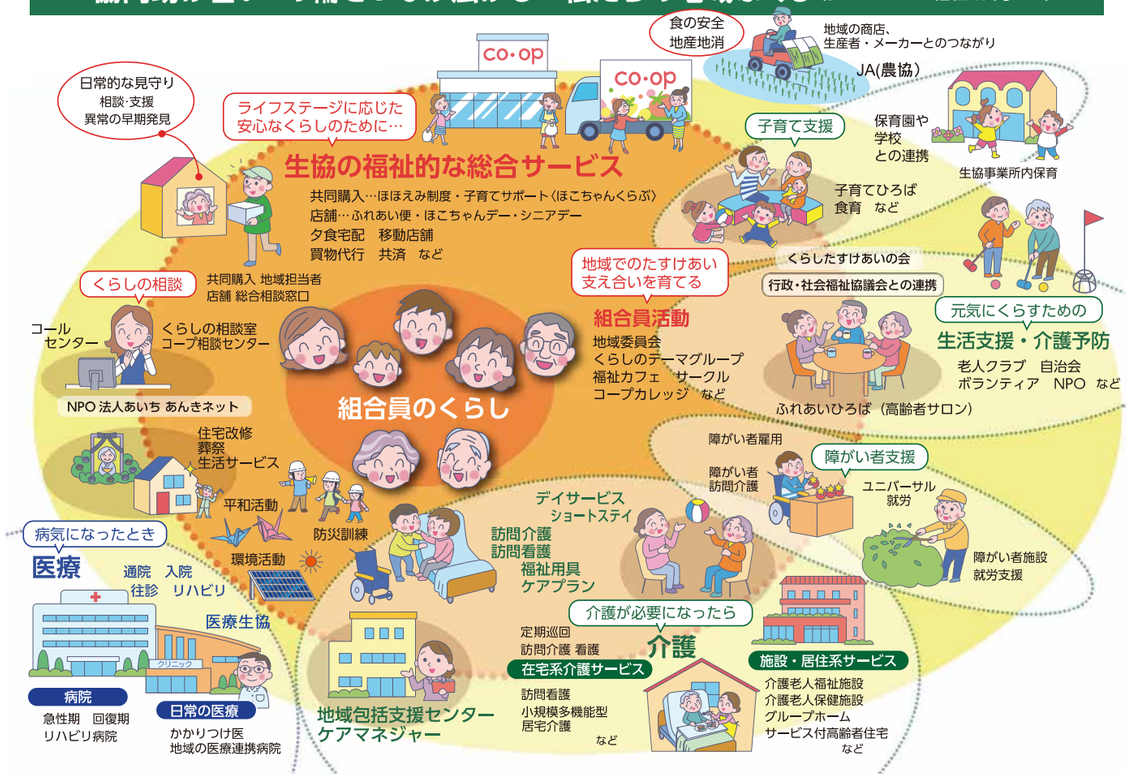
ブロック運営がつなぎ・広げる“パートナーシップ”

コープあいちの多彩な事業やサービスを地域の視点で生かすため、愛知県を7つの地域(ブロック)に分けたブロック運営をすすめています。7つのブロックは「事業間連携」と「地域連携」をすすめ、総合力でくらしに貢献するために不可欠な、さまざまな“パートナーシップ”をつなぎ、広げる起点となっています。

コープあいち組合員活動交流会in白鳥

「ブロックを越えた組合員活動交流の場」、「組合員活動を知り合い、コープの商品のよさを実感し合う場」として4月25日に開催しました。

“協同助け合い”の輪をつなげ広げる　私たちの地域ふくし（「コープあいち福祉政策」より）



※裏表紙に見やすく掲載しています。

持続可能な開発目標(SDGs)について

地球温暖化や自然災害、資源の枯渇、貧困、不平等な教育環境など、今、私たちはさまざまな問題に直面しています。グローバル化がすすむ中で、問題は複雑に関連し、解決には、経済、社会および環境側面からの総合的な取り組みが不可欠です。2015年9月、国連では「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が150を超える加盟国首脳参加のもと採択されました。この中で国際社会全体の普遍的な目標として持続可能な開発目標(SDGs)17のゴール(目標)と169のターゲットが掲げられました。

コープあいちは協同の力で「SDGsの17の目標」に取り組みます

2016年、ユネスコは、協同組合を「共通の利益と価値を通じてコミュニティづくりを行うことができる組織であり、雇用の創出や高齢者支援から都市の活性化や再生可能エネルギープロジェクトまで、さまざまな社会的な問題への創意工夫あふれる解決策を編み出している組織」として「ユネスコ無形文化遺産」に登録しました。

SDGsの17番目の目標は“パートナーシップ”です。2020年ビジョンの実現をめざし、さまざまな課題を解決するためには、協同の力が不可欠です。コープあいちは、組合員との絆を大切に、地域とのつながり、行政との連帯、さまざまな取引先との連携を“力”にしながら課題の解決に努めています。

編集方針

コープあいちサステナビリティレポート2018は持続可能な開発目標(SDGs)を指針とし、「SDGsの17の目標」の5分類(5つのP)「People(人)」「Prosperity(豊かさ)」「Peace(平和)」「Planet(地球)」「Partnership(連帯・協同)」をキーワードに、2017年度のコープあいちの主な活動を報告します。

対象期間　2017年3月21日～2018年3月20日(一部に例外もあります)
対象範囲　コープあいちの全部局・全事業所および委託先・連携する諸団体
発行年月　2018年5月

目　次

2020年ビジョン／編集方針／目次	P1
〈特集〉森づくりは海づくり	P3
エシカル消費が世界を変える	P5
真のくらしの豊かさを実現する	P7
すべての人々に尊厳あるくらしを	P13
〈特集〉ハートコープあいちの今	P15
平和で公正な社会の実現	P17
かけがえのない地球を未来の世代へ	P19
DATA(事業)	P23
多様な職員の力で未来を拓く	P25
サステナビリティレポート発行にあたって	P26

特集 森づくりは海づくり

協同組合だからできること…

自然と組合員と生産者・メーカーがひとつになって、森と海を育むサイクルを未来へつなげる

野付郡別海町。北海道東部沿岸部のこの地域は、古くから沿岸部では漁業が、内陸部では畑作農業が営まれてきました。沿岸流によって28kmにわたり形成された野付半島は、さまざまな生き物の生息地となり、半島によって囲まれた野付湾は豊かな漁場となってきました。昭和に入って農業から酪農への転換がすすめられ、現在では広大な酪農地帯が広がっています。

近年この海に大きな変化が現れています。海の恵みは、豊かな森が生み出す栄養豊富な水によって育まれます。環境の変化によると思われる漁獲量の減少に危機感をもった産地の人々は、自然のサイクルの修復に地道な努力を続けています。

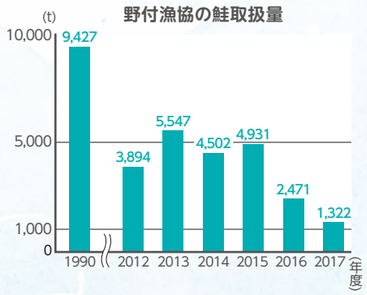
野付漁業協同組合の内藤智明さんに野付の現状と取り組みについてお話をうかがいました。

◆漁獲量の激減…鮭はどこへ？

野付漁業協同組合
常務理事
内藤 智明さん

鮭の稚魚は海に出た後、3～4年かけて生まれた川に戻って来ます。北海道全体で10億匹、野付半島がある根室管内でも2億匹の稚魚を放流しています。

例年5,000ｔほど獲れていた鮭が2016年は2,400ｔになり、さらに2017年には1,300ｔまで急速に減少しました。2017年は台風18号の影響で定置網に被害を受けたことも原因の一つと考えられますが、地元漁協では、温暖化による漁場の北上を指摘する声もあり、詳しい原因は分かっていません。



海を守るために…森を育てる　まずは川をきれいにしようと地元の漁業関係者が立ち上がりました

◆植樹で川や海も豊かに

「野付半島のある別海町は国策として酪農をすすめ、川の流域近くまで木を伐採してしまいました。森と川と海はつながっています。伐採で川には土砂が流れやすくなりました。鮭の稚魚を放流するのに川が汚れていてはだめだろうと、ＪＡと北海道漁連が協力して1988年に川に隣接した土地から植樹を始めました。その後、森林組合も加わり保全計画を立てながら活動は続いています。生活排水の規制をしていることもあり、川の水質はよくなっています。植樹がすぐに漁獲量増加につながるわけではありませんが、できることを見つけて行動することが大切です」（内藤さん）

◆「獲らない」ことで未来へつなぐ

「鮭が来ないということは、卵を産むために川を遡上する鮭も少ない、つまり3～4年後に漁獲するための『種』がない、ということ。不漁が続くと、未来の鮭のため収獲期半ばで漁を規制して鮭を遡上させます。今年は昨年よりさらに不漁なので、切ない思いで規制時期を2週間早めました」（内藤さん）

自然の回復には長い時間がかかります

鮭の漁獲量減少についてはさまざまな要因が指摘されていますが、原因はまだ分かっていません。自然の回復には破壊するときの何十倍もの努力が必要です。コープあいちは「コープの森づくりマーク」がついた商品の利用で1品に対して1円を支援する取り組みや、現地での植樹活動への参加など息の長い支援を続けています。

コープの森づくり 対象商品
- 北海道野付産定塩秋鮭切身
- 北海道野付産いくら醤油漬け
- 野付の秋さけ便利カット 骨とり皮なし

…など

〈2017年度の植樹実績〉

寄付金額 389,606円　植樹本数 680本

【活用内容】植樹する苗木購入とコープの森の管理費等として活用しました。

沖縄恩納（おんな）村やインドネシア・タラカン島でも森づくりを支援しています

◆沖縄県・恩納村　サンゴの里海づくり

サンゴ礁は天然の防波堤として、多くの生き物のすみかとして、重要な役割を担っています。しかし、地球温暖化などの環境の変化を受けて、沖縄のサンゴは絶滅の危機に直面しています。美しいサンゴ礁で知られる恩納村では、漁協が中心となって「サンゴ礁の海を育む～里海づくり～」として、1999年よりサンゴ養殖の研究・植樹に取り組んでいます。

コープの森づくり 対象商品
- もずくの極 三杯酢
- 恩納村産味付糸もずく（三杯酢）

…など

〈2017年度の植樹実績〉

寄付金額 437,644円　植樹本数 324本

【活用内容】サンゴの苗木、植え付けに使用する台座などの購入代金等として活用しました。

◆インドネシア・タラカン島　マングローブの森づくり

タラカン島では、自然に近い環境でエビを養殖する「粗放養殖（そほうようしょく）」を行っています。海の干潮を利用した収獲や、養殖池に自生する植物や生物をエサとするなど、環境負荷や維持にかかる電気エネルギーが少ない方法です。しかし、いくら環境負荷が少なくとも池をつくる際マングローブを伐採することに変わりはありません。そこで使い終わった養殖池にマングローブの植樹をして自然に戻す取り組みをしています。

コープの森づくり 対象商品
- ブラックタイガーエビ（下ごしらえ済）特大
- 手間なしパパッとぷりぷりエビチリ

…など

〈2017年度の植樹実績〉

寄付金額 120,080円　植樹本数 1,500本

【活用内容】植樹するマングローブ苗木購入と輸送費、森づくりのための施設管理費等として活用しました。

組合員情報誌「ウイズコープ」で3回にわたり「森づくりは海づくり」の特集をした際の組合員モニターさんからいただいたご意見より

当たり前のように食卓に届いている食品の背景にはさまざまな取り組みがあるのだと改めて感じました。

植樹が川の水質をよくする。道のりは遠いけれどつながっているんですよね。うちは鮭が好きな家族なので不良なのはショックです。少しの力にしかならないけど、森づくりマークの商品を購入して協力したいです。

地球 Planet

エシカル消費が世界を変える

経済のグローバル化がすすみ、身の周りの多くの商品が世界とつながっています。
経済活動が地球規模で拡大する中で、急激な気候変動や自然災害に苦しむ人々。貧困や不平等な教育環境を背景に過酷な労働を強いられる子どもたちがいます。
コープあいちは、エシカル消費を「地域や社会、環境や人に配慮して、モノやサービスを利用する消費のあり方」と位置づけ、正しい情報を伝えることで、消費を通じた社会の変化につなげます。

ディルマ紅茶スクールバッグ提供支援

コープあいちではDilmah（ディルマ）の多くの紅茶を取り扱っており、豊橋市に本社を置くワルツ株式会社が日本の総輸入元となっています。ディルマは、「新鮮・純スリランカ産」のディルマ紅茶を楽しんでもらうことで生まれる収益を活用してMJF慈善基金を運営し、スリランカで恵まれない環境に置かれた人々の、自立的な生活再建を支援する活動を行っています。その中で、茶園で働く女性たちのために約70カ所の保育所を運営しています。

また小学校に入学する500～600人の子どもたちに、毎年スクールバッグを提供しています。コープあいちはその活動に賛同し、東海3生協(コープあいち、コープぎふ、コープみえ)で、2017年8月1日～2018年7月31日の期間、ディルマ紅茶の各商品1点利用につき1円を支援金として協力します。スクールバッグ70個（金額：約48,000円、利用点数換算：48,000点）の提供をめざしています。

【期間】2017年8月1日～2018年7月31日

※ＭＪＦ慈善基金…ディルマブランドの運営母体「MJFグループ」が2002年に設立した基金

▲対象商品例

CO・OP×レッドカップキャンペーン

地球の飢餓を救え。WFP 国連世界食糧計画

▲対象商品例

対象品を1品購入ごとに1円が、ＷＦＰ（国連世界食糧計画）を通じて、ガーナ共和国の子どもたちに学校給食を届ける活動に寄付されます。

【期間と実績】2017年10月1日～11月20日／194,635円

CO・OPコアノンスマイルスクールプロジェクト

対象品を1品購入ごとに1円が、ユニセフ（国際連合児童基金）を通じて、アンゴラ共和国の「子どもにやさしい学校づくり」のために寄付されます。

コアノン スマイルスクール プロジェクト　1パック購入で1円をユニセフに

▲対象商品例

【期間と実績】2016年11月1日～2017年10月31日／301,447円

「ピンクリボン運動」協賛キャンペーン

コープ化粧品1点の利用につき1円を、認定NPO法人J.POSH（日本乳がんピンクリボン運動）に寄付。乳がんに対する啓発や患者や家族の支援をすすめています。

【期間と実績】2017年10月1日～11月20日／100,493円※

※この金額は東海の3生協合計

J.POSH® 日本乳がんピンクリボン運動

▲対象商品例

洗剤環境寄付キャンペーン

ボルネオのみどりをつなごう 2017 1品購入で1円を寄付

コープの洗剤でプチ貢献 2017 1品購入で1円を環境団体に寄付

▲対象商品例

対象品を1品購入ごとに1円が、NPO法人・ボルネオ保全トラストジャパンが進めている、「ボルネオ緑の回廊」プロジェクトに寄付されます。

【期間と実績】2017年4月21日～10月20日／190,264円

環境政策・環境方針の見直しをすすめました

環境方針は4つの柱と行動計画からなり、4つの柱の内の1つが「地球にやさしい商品の普及」です。行動計画の具体化のため、商品の特徴にあった効果的な方法で利用普及に取り組みます。 〈環境政策・方針の詳細は19ページに掲載〉

コープあいちの環境方針 4つの柱

- 低炭素社会の実現
- 循環型社会の実現
- 自然との共生社会の実現
- 地球にやさしい商品の普及

低炭素社会の実現を啓発する商品

［普及対象商品例］

◆CFPマークがついている商品

CO_2

商品の原材料の調達・製造から廃棄・リサイクルまでのすべての過程で排出される二酸化炭素（CO_2）の量を商品に表示したものです。

循環型社会の実現に役立つ商品

［普及対象商品例］

はぐくみ自慢 CO・OP

◆はぐくみ自慢の「リキッドフィーディングシステム※」で育てた豚肉

※リキッドフィーディングシステムは、食品製造過程でできる未利用・未使用食品を活用し、液状に加工して養豚のエサとして与えるものです。

◆はぐくみ自慢の「あいちの米たまご」

休耕田などを活用して、飼料用米をつくり鶏に与え、鶏糞は堆肥化して田んぼに戻します。耕畜連携の取り組み商品。

自然との共生社会の実現に役立つ商品

［普及対象商品例］

◆FSCマークがついている商品

責任ある森林管理をしている林業者を支援し、世界の森林保全貢献につながる木材製品です。

◆MSCマークがついている商品

海のエコラベル 持続可能な漁業で獲られた水産物 MSC認証 www.msc.org/jp 魚食の未来のために msc.org/jp

水産資源を枯渇させないよう、漁獲量や漁法・漁の時期、生態系などに配慮した漁業でとられた水産製品です。

コープの森づくり　www.mell.jp マリン・エコラベル・ジャパン

●その他にも「コープの森づくりマークの付いた商品」「マリン・エコラベルの付いた商品」があります。

◆レインフォレスト・アライアンス

農園からの農産製品は、農園の家族、野生生物、環境に利益をもたらす方法で栽培されています。

RAINFOREST ALLIANCE CERTIFIED

豊かさ
Prosperity

真のくらしの豊かさを実現する

メーカー・生産者とのパートナーシップを通じて健康で豊かな食生活をめざします

くらしの豊かさは食の豊かさから・・・
コープあいちは、メーカー・生産者との交流を通じて商品の価値を共有化し利用の輪を広げます。

4 質の高い教育をみんなに　17 パートナーシップで目標を達成しよう

ラブコープフェスタ

〈参加者数／180カ所15,000人〉

ラブコープフェスタは、コープの取引先のみなさんが組織する虹の会とコープあいちによる協働の取り組みです。

コープ商品の試食交流会、地元の産物を使用した料理交流会、幼児食の交流会など地域の特色や組合員の要望に合わせたさまざまな内容で開催されています。

2017年度は180カ所以上の会場に、約1万5千人の組合員のみなさんが参加し、メーカー・生産者との交流を深めました。直接会って、話して、食べることで、文字だけでは分からない生産者の商品に対する強い想いやこだわりが伝わってきます。また、日頃、なにげなく使っている商品の新たな一面を発見する場ともなっています。

▲2月10日
西尾勤労会館体育館でメーカー20社が参加し、コープあいちのこだわりラブコープフェスタを開催しました。当日は約400人の組合員と地域の方が参加し、特に節辰商店のかつお節削り体験は大人気でした。

◆メーカー生産者より　有限会社 節辰商店　**安達 秀子**工場長

愛知県で創業160年になる「だし屋」節辰商店です。2月22日、春日井市で開催されましたラブコープフェスタに参加いたしました。組合員のみなさま、メーカー生産者、生協職員様など総勢40人ほどのにぎやかな料理教室となりました。和やかで楽しい雰囲気の中、弊社の商品を使った親子丼、茶わん蒸し、おすましが30分ほどで次々出来上がりました。

だしを使った料理というと手間がかかるのではないかという先入観をお持ちの方が多くいらっしゃいます。減塩に役立ち、体によいとは思っていても、時間がないからだしを取ることができないと思っていらっしゃる方が多いと思います。そのような方々にラブコープフェスタを通じて、だしの使い方をお伝えしたいと思って活動を継続してまいりました。

料理が終わり、全員での試食が始まった瞬間のみなさまの笑顔が活動の答えであると思っています。

ラブキッチンカフェ

7月8日、大学と鶏卵生産者および行政との連携学習会「ラブキッチンカフェ」を開催しました。

参加者は組合員31人、一般市民13人、愛知学院大学の学生と教員10人の他、たまごの生産者の市田真新さんや行政関係者を含め総勢73人です。

耕畜連携、持続可能な農業、食糧自給率の側面から、はぐくみ自慢「あいちの米たまご」の取り組み意義を学習した後は、愛知学院大学、酒井映子教授（栄養学）から、たまごが大変優れた食材であることについて学びました。「たまごのコレステロールを心配しすぎる人もいますが、毎日2個食べることをおすすめします」とのアドバイスのあと健康栄養学科の学生から、たまごをメインにしたランチプレートの提案を受けました。参加者にとって、普段の食卓の中でたまごを見直すきっかけとなりました。

稲刈り交流会

〈参加者数／1,515人（年間）〉

コープあいちでは、毎年JAあいち海部、JAあいち豊田、JAあいち中央、JAあいち三河、JA上伊那と一緒に田植え、生きもの観察会・かかしづくり、稲刈り交流会を行っています。消費者と生産者の交流を通じて、農業、お米の大切さ、田んぼの持つ環境保全や生物多様性における大きな役割を知る貴重な機会となっています。

5つのJA合わせて、年間1,515人が参加しました。

参加者感想

体を動かしてからいただくごはんと豚汁は、子どもも大好きで、普段パンばかりでごはんを食べない子どもが、ここではおかわりもして、お土産におにぎりももらいたいと言っていました。今日は家族みんな、貴重な体験とともに「食育」「食」について学ばさせていただきありがたく思います。来年も参加させていただきます。

とうもろこし収穫体験

6月17日、JAあいち中央で、とうもろこしの収穫体験を開催し、17家族（大人34人、子ども37人）が参加しました。それぞれが収穫したとうもろこしは、その場でゆでて試食し、もぎたての美味しさを実感しました。

参加者感想

とうもろこしをもぐときのザクッという感覚が気持ちよかったです。皮をむいたときにきれいな色のぷちぷちの実がぎっしり並んでいて感動！とれたてのとうもろこしは、こんなにおいしかったのかと驚きました。

味噌づくりinコープ大高インター店

2月9日、くらしのテーマグループ「なかよし」が恒例の味噌づくりを行いました。CO・OP豆みその野田味噌商店さんを講師に迎え、11人の組合員が味噌づくりを体験しました。

味噌玉をつぶし、塩・水をよく混ぜ合わせます。その後、容器に隙間なく詰めて、ラップで蓋をし、その後は自宅の冷暗所で約1年寝かせます。味噌玉と塩・水をよく混ぜ合わせる工程はかなり大変でしたが、ゆっくりと発酵、熟成するのを待つ楽しみも味噌づくりの魅力です。

その他の交流会実施

- 麦の交流会／JAあいち中央（6月4日）
- こんにゃく交流会／JA愛知東（7月25日）
- 大豆交流会／JAあいち中央（10月9日）
- 八名丸（里芋）交流会／JA愛知東（10月15日）
- プチヴェール交流会／JAあいち尾東（1月27日）
- にんじん交流会／JAあいち中央（2月17日）

豊かさ
Prosperity

真のくらしの豊かさを実現する

協同と事業連携の力で、安心してくらせるまちづくりに貢献します

高齢化・過疎化・孤立化がすすむ中で…誰もが利用できる事業へ

買い物が困難な高齢者や赤ちゃんのいる家庭への支援、山間部や島への商品のお届けなど、地域やくらしの要望に沿ったさまざまなサービスを愛知県下の隅々で提供しています。コープあいちの物流インフラは、単に商品のお届けだけでなく、地域の中で人と人を結ぶ役割を担います。

モーニングコープ

〈利用登録者／4,200人〉

牛乳や野菜、惣菜などを早朝、週2回お届けしています。利用者の年齢構成は、50代～70代の方が中心です。

利用者の声

- カタログの掲載商品数もちょうどよく選びやすい。
- 注文した商品が週2回、早朝玄関先に届くので助かる。

※尾張地域が対応エリアです
（稲沢市、一宮市の一部地域と知多半島南部を除く）

夕食宅配

〈利用者／3,100人、1日当たりの配食数／3,600食〉

月曜日～金曜日、毎日違う献立を冷蔵してお届けしています。前日のお弁当がそのまま残っていたりしたときは、事前に登録いただいた緊急連絡先にお電話をさし上げています。毎日のお弁当配達を通じた利用者の方々との関わりを大切にしています。

利用者の声

配達員の方の元気な声が体に響き、寝たり起きたりの老人も、ひと時明るい気持ちになれます。

移動店舗車（フレンズ便）

〈利用者1日当たり／63人、1週間の訪問箇所数／25カ所〉

コープ大高インター店を母店に週当たり25カ所の停留所を移動店舗車で回っています。地域の組合員を中心に高齢者の孤立防止という福祉的視点から、行政や各地域の社会福祉協議会、民生委員のみなさんと停留時間帯を通じてさまざまな取り組みを行っています。

利用者の声

近くのお店が閉店し買い物に困っていましたが、移動販売の車が来てくれるようになり週に一度孫を連れて買い物に行くのが楽しみになりました。

共同購入事業

〈利用者数／145,573人〉2018年3月3週時点

共同購入事業では、14のセンターより、愛知県内の隅々へ商品をお届けしています。配達はグループ購入・コープ宅配・ペア宅配等、利用者の状況と要望に沿った方法で行います。

ほほえみ制度〈登録者数／39,032人〉2018年3月時点

ほほえみ制度は、高齢世帯・障がいをお持ちの方などに対して、宅配利用料を減免する制度です。重たいお米や、トイレットロールなどのかさばる商品を玄関先までお届けすることで、生活のサポートをすることを目的につくられた制度です。

赤ちゃん・キッズサポート〈登録者数／55,719人〉2018年3月時点

「赤ちゃんサポート」とは、子育てで、食事づくりや、お買物が大変なお母さんを応援するしくみです。妊娠中の方や1歳未満のお子さまがいるお母さんなら、最長1年間、宅配利用料が無料とサポート商品割引、地域の子育て情報などの支援が受けられる制度です。「赤ちゃんサポート」は、2014年4月に15,309名よりスタートし、2018年3月時点で「キッズサポート（1才～小学校入学まで）」と合わせて55,719名の方が登録しています。

見守り協定

〈協定締結自治体数／35行政〉2018年3月時点

コープあいちでは、市町村と当該地域の事業所が連携し、高齢者の方などが住みなれた地域で安心してくらせるまちづくりをめざして見守り協定を結んでいます。

2017年度は新たに幸田町、岩倉市、碧南市と協定を結びました。高齢者等地域見守り協定や、はいかい見守りネットワークを35の行政と締結しています。

運転免許自主返納支援

〈利用者数／600人〉2018年3月20日時点

運転に不安を感じ、運転免許証の自主返納を検討する高齢者ドライバーが、いらっしゃる反面、近くのお店が閉店するなど、買い物困難を訴える声をお聞きします。コープあいちでは2017年7月より、運転免許を返納された方に対しコープ宅配の利用料金を無料にする制度を開始しました。制度開始後約1カ月半の間で、309人の運転免許自主返納による登録がありました。登録者の平均年齢は74.3歳です。

お買い物でお困りの方はいませんか？

運転免許を自主返納された方、コープ宅配利用料を無料に!!

【2017年7月17日（月）～】

「免許を返納し、車がなくなってお買い物に苦労している」、「運転に不安があるけれどお買い物のために車を使っている」という方はいらっしゃいませんか？
地域の交通安全と安全なまちづくりのために、コープあいちがみなさまのお買い物をサポートします。

対象　運転免許を自主返納し、「運転経歴証明書」をお持ちの方
（組合員ご本人を含むご夫婦のいずれかが持っていれば対象となります）

◆お申し込みは、地域担当、または、ご利用の共同購入センターまでお願いします。

子ども交通安全教室

10月21日、豊川市の美園保育園で、コープあいちの職員による交通安全教室を開催しました。トラックの死角体験（写真）、正しい横断歩道の渡り方の他、交通安全クイズなども実施しました。子どもたちはみな真剣に取り組み、道路に潜む危険について楽しく学びました。

豊かさ
Prosperity

真のくらしの豊かさを実現する

協同と事業連携の力で、安心してくらせるまちづくりに貢献します

県下19カ所に展開する店舗を始め、コープあいちの施設は地域のコミュニケーションの拠点です。2017年6月には組合員と地域の方に開かれた施設として生協生活文化会館をリニューアルしました。先行して2017年2月には、1階店舗「コープ本山」のリニューアルを実施しています。

3 すべての人に健康と福祉を　10 人や国の不平等をなくそう　11 住み続けられるまちづくりを　17 パートナーシップで目標を達成しよう

生協生活文化会館がリニューアルオープン

▲木製の備品を揃えたキッズコーナー。奥にはおむつ替え台や授乳室もあり

▲セルフで飲食や歓談ができるフリースペース

6月23日、生協生活文化会館がリニューアルオープンしました。この会館は、コープあいちの前身であるめいきん生協の創立10周年を記念して組合員の「基金」で建設した建物で、組合員活動はもちろんのこと、地域の方にも広く利用されてきました。今回の改修では、組合員のみなさんの意見要望を生かしました。授乳室を備えたキッズコーナーを新設し、飲食や学習にも使えるフリースペースを充実。調理室や会議室もリフレッシュしました。

ふれあい便

〈利用登録者数／1,027人、1日平均利用者数／35人（とよあけ店・上社店）〉

店内で買い物した商品を即日、ご自宅までお届けするサービスです。（月～金曜日）

利用者の声

- 配達の方が、テキパキとやられていて、元気な挨拶と丁寧な手渡しをしてくれてありがたいです。
- 帰りに重い荷物を持ち帰ることを考えなくてもよいので楽しく買い物ができるようになりました。

シニアデー・ほこちゃんデー

〈利用者数／1回当たり約5,700人〉

店舗では毎月「5」のつく日にシニアデー・ほこちゃんデーを開催し、お買い物金額を5%引きしています。「5」のつく日は、15日が年金支給日であることから65歳以上の組合員のくらしを応援する日としました。また同時に、0歳～小学校卒業までのお子様のいらっしゃる組合員の子育てを応援する日でもあります。

2018年3月時点のシニア登録は23,577人、ほこちゃん登録は1,964人です。毎日、店舗への来店者数は約12,900人ですが、「5」のつく日は14,000人を超えます。毎回、この応援企画を利用される方は約5,700人となり、店舗への期待が高まっています。

まちかど健康チェック／福祉なんでも相談室（コープ上社店）

コープ上社店では北医療生協と連携して、毎月15日、10時～12時の2時間、「まちかど健康チェック」と「福祉なんでも相談会」を開催しており、毎回、20人前後の方が参加します。血圧、体脂肪チェックの他、骨密度や血管年齢の測定機器を用いた健康相談に応じています。福祉サービス名東からはケアマネジャーを派遣し、福祉に関するさまざまな相談に対応します。（2018年4月からは毎月25日に実施します。）

コープ相談センター・くらしの相談室（生協生活文化会館）

組合員がくらしの中の困りごとを気軽に問い合わせる窓口として「コープ相談センター」を、専門家による相談窓口として「くらしの相談室」を設けています。

▲女性総合電話相談

◆コープ相談センター〈2017年度／904件の相談〉

くらしの中で困ったときやどこに相談すればよいのか分からないときに気軽にお電話をいただく総合的な窓口です。相談内容によって、生協の各事業所・行政機関・地域のくらしたすけあいの会やワーカーズグループなど、適切な窓口の紹介もしています。

◆くらしの相談室〈2017年度／365件の相談〉

法律・税金・家庭内問題・相続・近隣関係など、相談内容をじっくりお聴きし、さまざまな専門家とのつながりも生かしながら、解決の道を一緒に考えます。専門性の高い法律や税金に関して、毎週木曜日に「税理士面談による税金相談」「弁護士面談による法律相談」も行っています。毎週火曜日には「女性総合電話相談」も行い、女性のもつ生活の悩み、困りごと、生き方などの相談にのっています。相談には、NPO法人「ウイメンズ・ボイス」に協力していただいています。

子ども食堂

愛知県に60カ所以上(内、名古屋市に30カ所以上)の子ども食堂が運営されています。多くのみなさんに支えられ、地域の特色にあった運営がなされています。

くろかわ子ども食堂（コープくろかわで開催）

毎月第4土曜日にコープくろかわの2階集会所で開店しています。この地域で活動する諸団体とコープあいちの組合員が参加する「安心してくらせるネットワーク北西世話人会」の話し合いから生まれました。一人ぼっちの孤食を防ぎ、さまざまな人たちの多様な価値観の中での「だんらん」を大切にし、毎月おいしい食事を提供しています。

わいわい子ども食堂（北医療生協 わいわいルームで開催）

わいわい子ども食堂は、北医療生活協同組合・名北福祉会・名古屋北法律事務所の友の会の三者で協働のプロジェクトを創り、2015年11月から月1回開催しています。

2016年にはコープあいち福祉基金の助成を受け、備品などをそろえることができました。昨年の1月には福祉基金を活用して、子ども食堂学習交流会を開催し、会場あふれる150人の参加で大成功させました。生協はまさに食材を扱っています。子ども食堂は食を媒介にして、緩やかに人がつながる居場所づくりをめざしています。誰もが安心してくらせるまちづくりを共に連携と協働で前進させたいと思います。

わいわい子ども食堂 運営委員長　**杉崎 伊津子さん**

▲3月7日（水）は100人を超える参加者でにぎわいました。コープあいちの豚肉・たまごの生産者である（株）クレストさんからはミンチとたまごの提供を受け、この日のメニューは、おいしい手づくりハンバーグでした。

人
People

すべての人々に尊厳あるくらしを

協同の力で、
健康的で尊厳あるくらしを守ります

住みなれたまちで、安心してくらしたい。地域ふくしの願いに応えるために、コープあいちは“協同・たすけあい”の輪をつなげ広げる福祉事業に取り組んでいます。

コープあいちの福祉事業

「生協10の基本ケア」の学習と実践をすすめました

政府は「地域包括ケア」の構築をすすめており、「医療から介護へ」「施設から在宅へ」を合言葉に、これからの介護が大きく変わろうとしています。コープあいちは福祉職員全員で、住みなれたところで安心してくらし続けられるように生活リハビリに加え、「生協10の基本ケア」の学習と実践をすべての介護保険サービス事業ですすめました。

▲10の基本ケア、研修会のようす

生協10の基本ケア

①換気をする
②床に足をつけて座る
③トイレに座る
④あたたかい食事をする
⑤家庭浴に入る
⑥座って会話をする
⑦町内へ外出する
⑧夢中になれることをする
⑨ケア会議をする
⑩ターミナルケアをする

すべてを行うことで「トータルケア」となり、普段のくらしを取り戻すことにつながります。①から順に取り組んでいます。

小規模多機能ホーム豊橋西

2017年12月に「小規模多機能ホーム豊橋西（小規模多機能型居宅介護）」を豊橋生協会館内に開設しました。

生活圏域内の、要介護者の様態や希望に応じて「通い」「訪問」「泊まり」および多様なニーズに対応する機能を組み合わせてサービスを提供することで、住みなれた地域での生活が継続できるように支援します。また、生活圏域内の多様な支援を要する方々の地域包括ケアの担い手になることをめざしています。

「あいち介護サービス大賞」受賞

「コープあいちデイサービス蒲郡」は「あいち介護サービス大賞」を受賞しました。同賞は、一般社団法人福祉評価推進事業団（愛知県共催）が愛知県下で先進的な取り組みを実践する介護事業所を表彰するもので、「生協10の基本ケア」の取り組みが今回、高く評価されました。

コープあいち生活支援センターなごや

〈延べ利用者数／667人〉

名古屋市の生活支援型訪問サービス※を行っています。高齢による体の衰えから、負担が大きい家事（掃除、調理、買い物など）を支援します。支援は指定の研修を受けたコープ生活支援員が行い、コミュニケーションをとりながら在宅で自立してくらすことを支援します。

※生活支援型訪問サービス…介護給付対象外の高齢者（要支援など比較的軽度な方）に、市町村ごとに提供される家事支援サービスです。

▲利用者宅のやり方を教わって掃除します

コープあいちくらしたすけあいの会

〈利用会員数／1,040人、協力会員数／501人、賛助会員数／533人〉 2018年3月20日時点

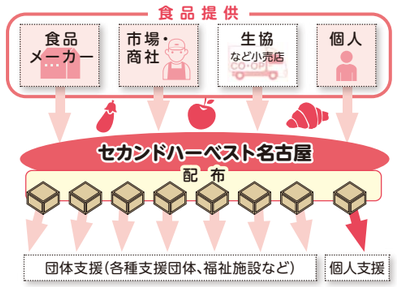
「くらしたすけあいの会」は病気やけが、などで家事ができないときに「困ったときにはおたがいさま」の気持ちでお手伝いをする、会員制・非営利の自発的な有償家事援助サービスの会です。身近な地域でたすけあいの輪が広がるよう、組合員と職員が一体となって活動をすすめています。

◀2017年8月1日からコープ上社店で始まった「ふれあい便」の受付を会員14人が担いくらしの困りごとを気軽に相談できる窓口となりました。

フードバンク支援

〈提供実績／11万点（1万7千種類）の商品提供〉 2017年（1月～12月）

2015年から賞味期限の残りが少ない食品など、お届け基準を外れて処分せざるを得なくなった商品を、認定NPO法人「セカンドハーベスト名古屋」を通じて福祉施設等の団体・個人へお届けしています。東海コープの物流センターから届けられた商品は2017年（1月から12月）実績で1万7千種類、11万点になります。コープあいちは、福祉基金を通じた支援もおこないました。



▲ICANが設立した協同組合カリエ・カフェ（パン屋）

ICAN（アイキャン）

フィリピンで、危機的状況にある子どもたちの生活改善をめざして、協同組合の設立・運営、職業訓練・教育等を通じ、自立を支援している地元名古屋市の認定NPO法人。コープあいちは書き損じハガキ回収等の取り組みを通じ、ICANの活動資金づくりに協力しています。2016年からはICANが主催する「フィリピンの子どもたちとの交流を目的としたスタディーツアー」に若い職員を中心に研修参加しています。

ユニセフ募金

世界には、5歳の誕生日を迎えることなく亡くなる子どもが年間560万人います。これらの子どもたちは、予防接種の普及、安全な水や衛生的な環境の確保、栄養改善などにより救うことができます。コープあいちでは12月に店舗を中心に「ハンド・イン・ハンド募金活動」やお年玉募金の協力を呼びかけ、ユニセフを通じて開発途上国の子どもの支援に役立てています。2017年度の募金額は3,664,590円です。

組合員有志による募金活動（コープ小幡 店頭）▶

特集

ハートコープあいちの今

障がい者雇用とディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を地域との連携で実現する

ハートコープあいち
事業所長
大西 和弘さん

2016年10月に誕生した「株式会社ハートコープあいち」は障がい者の雇用機会を拡大し、就労を通じた社会参加を促進する目的で設立したコープあいちの子会社です。2017年2月には愛知県より「特例子会社」として認定を受けました。

本格稼働を開始してから1年半が経過した「ハートコープあいち」から、これまでの努力と、これからめざすことについて、事業所長の大西和弘さんが報告します。

地域とのつながりを大切に

（株）ハートコープあいちは、障がい者が仕事を通して社会参加と自立ができるように支援し、事業を通じて、地域社会へ貢献していくことをめざしています。会社設立にあたり、地域のハローワークや特別支援学校、地元の障がい者就労支援機関と連携をとりながら、社員の採用に至りました。地域や行政のみなさんのご理解があったからこそです。

しかし、多くの地域では仕事に就けている障がい者はほんの一握りしかいません。多くの障がい者は学校を卒業しても仕事に就けていないのが実態です。これからも地域社会とのつながりを大切にし、障がい者や色々な理由で働けない方々の雇用に貢献できるように事業の拡大をすすめていきたいと考えています。

▲地域の特別支援学校教員による見学会（7月）

（株）ハートコープあいちの会社概要

わたしたちの会社は「働きたいのに働くことが困難」である人々を受入れ多様な働き方を実現する会社です。現在9人の知的障がい者を雇用し、主にリサイクル事業をしています。生活協同組合コープあいち100％出資の「特例子会社」です。

社名　株式会社ハートコープあいち
設立　2016年1月〈10月より事業開始〉
事業所　小牧市元町3丁目23番地
資本金　1,000万円（生活協同組合コープあいち100％出資）

主な事業内容

❶東海3生協で回収された紙類（商品案内、OCR用紙）、プラ系再生資源（内袋、卵パック）の圧縮処理および計量作業の請負
❷コープあいちから受注された各種資料セット、サンプル類のセット作業等の請負

特例子会社の認定について
「障害者雇用促進法」に基づく障がい者の雇用義務は、原則個々の事業主に課せられますが、事業主が障がい者雇用に特別の配慮をした子会社を設立し、一定の条件を満たして認定を受けた場合、子会社の労働者を親会社が雇用する労働者数に加えることができる制度です。

ハートコープあいちは温かい「居場所」

▲9人の社員が元気に働いています

多くの方に励まし支えられ

エコセンターで仕事を始めてから1年半。これまでにコープあいちの内外、全国生協から合わせて300人以上の方が会社見学に来られました。9名の社員は、より多くのみなさんに見ていただくことや励ましの言葉をかけてもらうことで「みんなの目つきが変わってきたね！」とうれしい言葉もいただきました。私たち管理者も仲間たちの成長を日々感じ、今ではこのセンターを運営していくために欠かせない重要な戦力となっています。

いいことばかりではなかった

確かな成長と今後の可能性を感じる一方で、その人の障がいの症状が作業中に強く出て、社員どうしでいざこざが起こったり、仕事に集中できず、まわりと作業テンポが合わせられない場合も多々あります。

社員がみんなの仕事の邪魔になる行動をとる時は、管理者も本気になって叱ります。「みんなの迷惑だから、仕事場から離れなさい！」と作業場の隅のベンチに座らせたりすると、どの社員もとても嫌がり、仕事に戻りたがります。

社員のみんなにとって一番つらいことは、「叱られること」よりも「仕事を外されること」だと気づきます。そんな表情を見ると、社員のみんなにとって、この仕事が「自分の居場所」になっていることを実感します。

態度には出さなくても「自分がいちばん仕事をちゃんとやるぞ！」と純粋に思い「ここで働きたい」という強い意欲を全員が持っています。そして最近ではこの仕事が楽しいと言ってくれます。

▲10月14日、職員の家族も一緒にコープの生産者でもあるFエース農園にて

少しずつ、でも、確かな前進を

おかげさまで、2017年度、（株）ハートコープあいちは、一定の収支の見通しをつくることができました。現在9人いる社員が成長を続けるなか、彼ら自身で日々の業務をやっていける状況まで到達しました。これからは、仕事の幅を広げ、社員を増やし、事業拡大ができるようになることが課題です。

6月には総代会でお配りするサンプル品の袋詰めをさせてもらいました。引き受けたときは出来が少し心配でした。「この商品はコープの組合員の大切なものだから」と説明し、意味を理解すると驚くほど丁寧に作業をしました。作業後の点検をしましたが、商品の種類も一つたりともミスはなく、袋に入れる向きすらも間違っていませんでした。

11月からはさらに新しい仕事として総代さんへ配布する資料のセット業務をさせていただきました。やれば何でもできることが、社員の確信となったと思います。

これからもっといろいろな仕事に挑戦しながら、コープあいち内での仕事探しもしていきたいです。

安全な職場づくり

怪我や事故のないよう安心して働くことができるよう、ドーリー計量秤の水平化工事や休憩室兼作業室の新設、夏場の熱中症対策として「冷風機の設置」など作業環境の改善を積極的に実施しました。そのような経営努力もあり、この1年間労災事故0を実現することができました。今後も安全な職場づくりを第一にしながら、健康な体づくりにも取り組んでいきます。

平和
Peace

平和で公正な社会の実現

協同と連帯の力で、平和で公正な、誰もが阻害されない社会を実現します

健康で豊かな生活は、平和あればこそ。コープあいちは、核兵器も戦争もない安心してくらせる社会をめざし、同じ思いのさまざまなみなさんと広く連携し、平和活動に取り組んでいます。

コープあいちの平和活動

平和行進

すべての人々が平和で安心してくらすことができる社会になることを願い、また、過去の過ちを繰り返すことなく平和な未来を確かなものとするために、コープあいちは毎年平和行進に参加しています。2017あいち平和行進には県内通し行進者として組合員6人がエントリーし、リレー行進者として職員24人が20コースをつなぎました。愛知県全体の取り組みとしては、5月31日～6月11日までの12日間39コース（約370km）に、7,330人が参加しました。

ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ（8月4日～6日・8月7日～9日）

被爆地の「ヒロシマ」「ナガサキ」を訪れ、被爆者の方に当時のお話を聴いたり、碑めぐりなどをして、戦争の実態について学びました。また、全国から集まった子どもたちによる「子ども平和会議」が開催され、未来を担う子どもたちが平和について真剣に考え合う貴重な経験となりました。

「ヒロシマ・ナガサキ 被爆者からの伝言」を作成

戦後、時間の経過と共に被爆体験者から当時のお話を直接、聴かせていただく機会はますます少なくなります。戦争の風化と美化によってふたたび過ちが繰り返されないようにと、組合員活動グループ「被爆者の声を聞き取る会」のみなさんが数年かけて、被爆者お一人おひとりを訪ねて当時の様子をお聴きしました。辛すぎる当時の記憶を思い起こし語ってくださった多くの方々の協力により、この冊子はできあがりました。

ヒバクシャ国際署名

〈署名件数／23,134筆〉

唯一の戦争被爆国である日本。当時の惨禍を知る被爆者のみなさんの「生きている間に核兵器のない平和な世界を」の思いに賛同し、コープあいちは、「ヒバクシャ国際署名」に取り組んでいます。

復興支援

3.11を忘れない…

コープあいちは、いまだ復興途上の“被災地の今”を組合員情報誌を通じて発信し続けています。また、募金活動の他、関係団体と連携し継続的な支援活動を行っています。

被災地支援/募金活動（2017年度の募金活用額／7,902,845円）

東日本大震災の支援活動に、組合員からお預かりした募金を活用しています。2017年度は仮設住宅や復興公営住宅でのコミュニティ再生などを目的にした住民交流会への支援なども行いました。2017年度の募金活用額は7,902,845円です。

いわて生協は、仮設住宅に住む方々にクリスマスカードを渡す取り組みをすすめてきました。コープあいちは全国の生協と一緒にこの取り組みに協力しています。また、陸前高田市で毎年8月に行われる「うごく七夕まつり」にはコープあいちの組合員がボランティアとして参加し、地域のみなさんと一緒に手づくりの山車を曳きました。

◆東日本大震災犠牲者追悼式

3月11日、約1万本の追悼キャンドルを灯し、東日本大震災の犠牲者を追悼する式典が名古屋市の矢場公園で行われました。コープあいちは、東日本大震災犠牲者追悼式あいち・なごや実行委員会の構成団体として参加し、多くの団体と一緒に準備や当日の運営に携わりました。また、多くの組合員が事前のキャンドルづくりや、当日のボランティアとして協力しました。

◆被災から学び、防災・減災活動へ生かすための講演会＆交流会

3月4日（日）生協生活文化会館
〈主催〉コープあいち復興支援防災活動推進委員会

震災を、自分のこととして考え、それぞれの地域の防災・減災活動に生かすと同時に、継続的な復興支援の重要性を地域やさまざまなグループで話題にし活動に生かすことを目的に、講演会と交流会を開催しました。

▲講演「子ども達の力から学ぶ」
陸前高田市教育長
金 賢治さん

防災協定

〈協定締結自治体／49市町村〉2018年3月時点

南海トラフ地震に備える「県民総ぐるみ防災訓練」（8月20日）

愛知県、春日井市、各防災関係機関、地域住民などが参加し、総合的な防災訓練を実施。愛知県生協連とコープあいちを含む県内6生協は、今年も救援物資を物資集積所へ輸送する訓練に参加しました。

福井県豪雪支援

福井県を襲った記録的な大雪により、福井県民生協は、共同購入の配達ができないなど雪による深刻な影響を受けました。配達の再開にあたり、物流センター再稼働に向けた支援、雪のため車が入れない家々への配達支援などに、2月10日から3回にわたり26人の職員が現地に入りました。

地 球
Planet

かけがえのない地球を未来の世代へ

責任ある消費と生産、気候変動への取り組みを、組合員と共にすすめます

2015年12月、「パリ協定（第21回気候変動枠組条約締約国会議／COP21）」が採択され、温室効果ガス排出削減などのための新たな国際的枠組みがスタートしました。日本や周辺海洋で、そして全世界で、気候変動に伴うさまざまな災害が発生し、直接的な被害だけでなく、作物の不作や海産物の不漁など、くらしへの影響が大変大きく・激しくなっています。この地球を未来に残すために、長期的な視点から、今行動すべきことを明らかにし、一歩一歩確実な歩みをすすめていくために、コープあいちは、環境政策を見直し、組合員と共に「社会的な責務・役割を発揮」していくことを、コープあいち内外に公表します。

コープあいち環境政策

私たちの生命とくらしは、多様な自然と豊かな生命のつながりによって支えられています。日本の山と緑、水や海の豊かな自然環境は、私たちに自然の恵みをもたらし、やすらぎやいやしなど心を豊かにする場でもあります。

コープあいちは、コープの事業と活動をとおして「笑顔あるくらし」をめざすと共に、豊かな自然の恵みと地域の産業を大切にし、安心してくらし続けられるまちづくりを協同の力ですすめます。

豊かな自然環境を保全し後世に残していくために、一人ひとりのくらし方を見直し、「脱炭素社会」に向けた環境方針・行動計画を策定します。

長期的な視点のもと、
今行動すべきことを
確実にすすめるために
4つの柱からなる
環境方針を定めます。

コープあいちの環境方針 4つの柱

低炭素社会の実現 CO_2など温室効果ガスの排出削減による低炭素社会の実現に取り組みます。 再生可能エネルギーの研究をすすめます。 I	**循環型社会の実現** 限りある資源を有効活用するために、資源の循環再生利用に取り組みます。 II
自然との共生社会の実現 自然との共生社会実現に向けて、生物多様性のこと、森や川、海などの自然環境保全を啓発します。 III	**地球にやさしい商品の普及** だれでも気軽に、参加できることとして、「地球にやさしい商品」（環境配慮商品）の普及に取り組みます。 IV

環境講演会（9月27日 岐阜薬科大学学長 稲垣隆司さん）

環境政策・方針の見直しを受けて、今後、具体的な温室効果ガス削減に関する行動計画を策定するにあたり、まずは、コープあいちの役職員が環境についてしっかり学ぶために、岐阜薬科大学の学長でコープあいちの有識者顧問でもある、稲垣隆司さんに「地球温暖化の現状とこれからの対策について」と題して講演をしていただきました。講演の結びでは、脱炭素社会の実現のためには、エネルギー消費の抑制、資源の循環などさまざまな視点はあるが、難しく考えることはなく、大事なのは「自分だけはよいだろう」ではなく、みんなが繰り返し取り組むことだと指摘されました。そのためにもまずは「一人ひとりが身近な取り組みを3日間やってみてください」との投げかけがされました。

●2017年度の取り組みの一部

低炭素社会の実現に向けて

◆再エネ発電（太陽光パネルの設置）〈年間太陽光発電量／248,355kWh〉

コープあいちは地球温暖化防止のため温室効果ガスであるCO_2の発生抑制に努めています。共同購入事業所の統合や店舗の設備更新をすすめると共にBDF燃料（廃食油からつくる燃料）で8台（2018年3月）の配送車両を運用することで、CO_2発生を抑制しました。また、この間新築したすべての配送センターに太陽光発電パネルを設置しています。2017年度実績で年間248,355kWhの電力を発電しました。

▶2017年1月開設の小牧センター屋上の太陽光パネル。2018年4月から稼働の西尾センターにも太陽光パネルを設置しました。

事業分野別CO_2排出量　単位：t-CO_2

	2016年度	2017年度		
	CO_2排出量	CO_2排出量	前年比較	%
共同購入・個配	3,813	3,911	98	102.6%
店舗事業	5,080	5,104	24	100.5%
福祉事業	426	426	0	100.0%
本部・生活サービス事業	685	603	▲82	88.1%
合計	10,004	10,044	40	100.4%

自然との共生（身近な自然に学ぶこと・・・）

◆愛知の森自然観察会

この4年間、環境活動推進委員会が毎月開催してきた愛知の森を中心にした自然観察会。

自然に触れることによって、身近な環境に関心を持ってもらうきっかけになればと始めたこの観察会には、毎回20人～30人が参加しています。樹木の話だけではなく、その地質や歴史、気候の変動など多岐にわたって学ぶ機会になっています。もっと多くの人に自然に触れて、感じて環境に関心を持っていただけるように、自然観察指導員の北岡明彦さんの監修で、観察会で訪れた地をわかりやすく載せたパンフ「ほこちゃんの森あるき」を発行しました。（A5版30ページ）

▲10月18日 愛知の森自然観察会

◆安城市榎前（えのきまえ）の田んぼの生き物観察会

毎年、愛知県下各ＪＡのみなさんを中心として取り組んでいる稲作交流会の一環として、田んぼの生き物観察会を開催しています。毎年多くの方に参加いただき、田んぼに生きるたくさんの生物に触れることによって生物の多様性や昔から田んぼが果たしてきたいろいろな役割について考えるきっかけになっています。

環境デーなごや2017

恒例の環境デーなごやに今年もブース出展をし、あいにくの雨天にもかかわらず、多くの方にコープあいちのブースを訪れていただきました。

ブースでは、自然観察会やＮＯ$_2$測定結果などのパネル展示と説明を行いました。クイズやアンケートにもチャレンジしていただき、コープあいちの環境の取り組みを知っていただきました。また、今年は職員も参加し、幅広くコープあいちの事業やサービスについてお知らせしました。

▲環境デーなごや2017のコープあいちのブースのようす

地球 Planet

責任ある消費…つくる責任・つかう責任

コープあいちでは、事業活動で排出される商品案内、包材の回収・リサイクルを促進すると同時に、食品残さの再資源化をすすめています。

循環型社会実現に向けて

◆エコフィード・リキッドフィード〈循環資源の活用量／18,000[t/年]（ロッセ農場実績）〉

エコフィード（ecofeed）とは、“環境にやさしい”（ecological）や“節約する”（economical）などを意味する“エコ”（eco）と“飼料”を意味する“フィード”（feed）を併せた造語です。食品製造の中で発生する副産物や余剰食品などを利用して製造された家畜用飼料です。産直豚生産者の高山市ロッセ農場では、このエコフィード飼料を豚の衛生管理に考慮し、おいしく、食べやすい液状（リキッドフィード）にして給餌を行っています。命ある豚の食べ物、そして人が食べる豚肉になることを前提に、品質・安全性・肥育に必要な栄養・味にこだわり、コープの商品を製造する食品会社など、しげんさいせいネット※の会員企業と協働・連携し循環型社会の実現をめざしています。

▲食品事業者より排出されたゆで卵の入荷検品

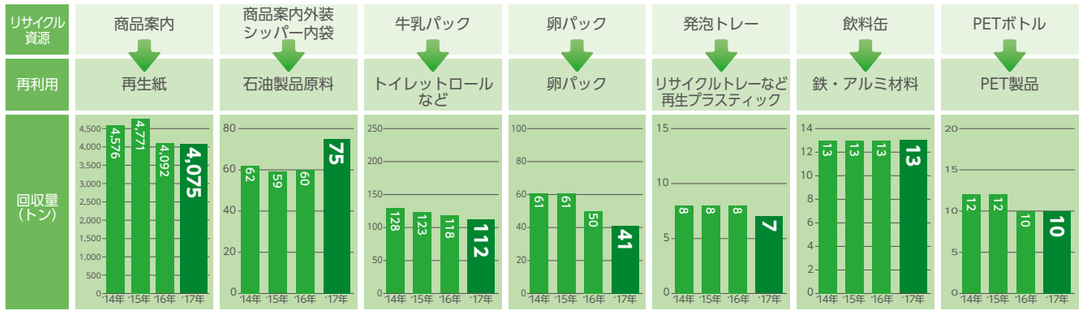
※しげんさいせいネット…2003年設立。有機性循環資源の再生利活用に取り組み、未活用食品の食品リサイクル（エコフィード）事業では有限会社ロッセ農場と共に2008年に愛知環境賞銀賞を受賞しました。

◆おかえりやさい〈食品残さ資源化量／177[t/年]〉

店舗から出る野菜くずや魚のアラを名古屋市港区のバイオプラザなごやに搬入し、40日かけて堆肥化しています。できた有機肥料をJAなごや大高のおおだかひろばエコ部会・ブロッコリー部会のみなさんが使って農産物を栽培、コープ大高インター店で「おかえりやさい」として販売しています。また、ブロッコリーは栽培自慢のブロッコリーとして共同購入で組合員にお届けしています。

▲バイオプラザなごや
▲コープ大高インター店

コープあいちの事業活動におけるリサイクル実績



環境会計

環境保全コスト：事業活動での環境への負荷を減らすための投資や経費

単位:千円

分類		主な取り組みの内容	実績値	前年度比較
内訳	1.公害防止コスト	公害(大気・水質・土壌、騒音・振動・悪臭等)防止のための投資・および経費。浄化槽点検・水質検査等	2,107	▲279
	2.地球環境保全コスト ※1	省エネ・地球温暖化防止のための設備機器導入費用、BDF車両運用でのメンテナンス費用	53,883	4,995
	3.資源循環コスト	廃棄物処理・リサイクルに必要な投資および委託費用	40,106	▲844
上・下流コスト		再商品化委託料	1,338	▲146
管理活動コスト		MS教育費用、ISO(MS統合)審査・認証維持費用	2,367	60
調査研究活動コスト		環境関係団体会費、研修会費用	419	251
社会活動コスト		環境保全活動、CSR報告書作成等環境情報公表活動費用	1,530	9
環境損傷コスト		環境にかかわる機器の修復(撤去)費用、環境賦課金	0	▲692
合計			101,750	3,354

※1）地球環境保全コストの施設設備費用は取得価格を記載しています。

環境保全効果：事業活動で使用した各エネルギー量と廃棄量の変化

	①環境保全効果を表す指標(事業活動で取り組んだ効果)			実績値	前年度比較
事業活動に投入した資源	エネルギーの投入	電気(電力使用kWh)	施設の照明・空調・要冷設備等で使用	15,954,053	132,934
		都市ガス(㎥)	空調・給湯設備	102,378	▲7,294
		LPガス(㎥)	給湯設備	8,617	▲20
		ガソリン(リットル)	配送車両・業務車運行	346,869	▲28,859
		軽油車両(リットル)	配送車両・業務車運行	495,296	14,204
		LPG車両(リットル)	配送車両・業務車運行	36,646	▲14,239
		水(㎥)	施設の上水・下水	64,925	1,761
事業活動から排出環境負荷および廃棄物に関する効果	エネルギー消費によるCO_2排出量(t-CO_2) ※2			10,044	40
	一般廃棄物排出量(334t) - 生ゴミ堆肥化リサイクル量(177t) = 廃棄量(157t)			157	0
	廃プラスティック排出量(154t) - 資源化量(47t) = 廃棄量(102t)			102	0
	生ゴミ・廃プラスティックの再資源化量(t)			224	▲4

※2）エネルギー消費によるCO_2排出量は、電気の使用量に排出係数0.423(kg-CO_2/kWh)を乗じたものです。

	②環境保全効果を表す指標（組合員と共に行った活動での効果）	実績値	前年度比較
回収リサイクル量	レジ袋想定削減枚数(千枚)	6,619	▲158
	牛乳パック回収(t)	112	▲6
	卵パック回収(t)	41	▲9
	スチロールトレー回収(t)	7	▲1
	シッパー内袋回収(t)	75	15
	商品案内書(t)	4,075	▲17

単位:千円

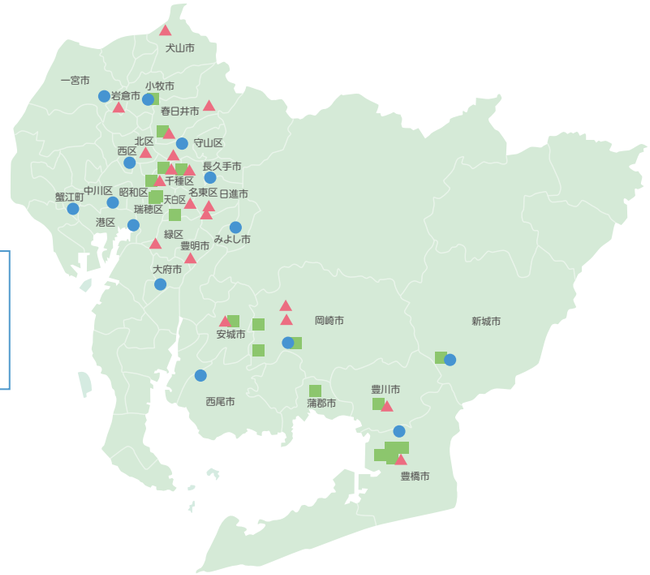
		実績値	前年度比較
廃棄物処分にかかわる収益	廃棄物の有償リサイクルによる販売収入(牛乳パック、店内加工での廃食油)	1,353	▲213
	レジ袋有料化によるレジ袋代金収益	1,697	▲57
	合計	3,050	▲270

単位:千円

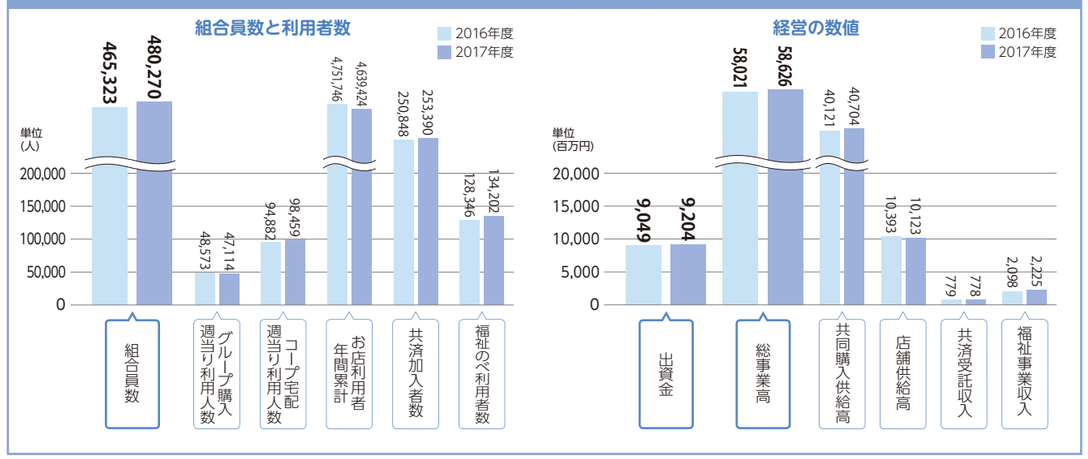
	前年度比較
店舗での値引きロス・廃棄ロスの削減	▲4,513

DATA
ー事業ー

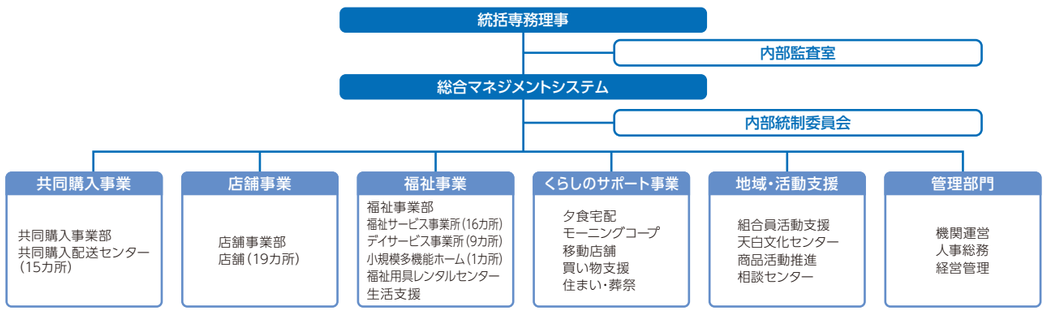
●組織概況



コープあいちの概要



●2017年度マネジメントシステム管理体制



2017年度、内部統制の取り組み

今年度より内部統制とマネジメントシステム(環境・品質)を一体化し、「総合マネジメントシステム」を開始。コンプライアンス対応とリスク管理レベルの向上を図るとともに、業務の簡素化・効率化や活動の活性化を通じて内部統制の有効性をさらに高めることをめざしました。ISO外部審査を継続するとともに、内部監査体制を強化し、監査結果に基づく改善をすすめる中で、PDCAが有効に機能する組織体質への改革をすすめています。

共同購入事業

コープ宅配は、14のセンターより、愛知県内の隅々へ商品をお届けしています。配達はグループ購入、個配、ペア宅配など利用者の状況と要望に沿った方法で行います。食品を中心に毎週4,000品目以上の商品を注文書でご案内し、生活スタイルに合わせ毎週14万5千人以上の組合員が利用しています。2017年度の供給高は約407億円(前年比101.5%)。新規加入は、27,272人(年間)でした。

店舗事業

愛知県内に19店舗(尾張エリアに14店舗、三河エリアに5店舗)を展開し、毎日の食生活を支える事業を行っています。2017年度の供給高は約101億円(前年比97.4%)、のべ約464万人(前年比97.6%)の方が来店されました。

福祉事業/生活支援事業

県下20カ所の福祉事業所でさまざまなサービスを提供しています。

- ●居宅介護支援事業所:16カ所/ケアプラン:延べ31,517人
- ●通所介護事業所〈デイサービス〉:9カ所　利用者数:延べ45,175人
- ●短期入所生活介護事業所:1カ所/利用者数:延べ6,421人
- ●地域包括支援センター事業所:3カ所　ケアプラン:延べ7,713人
- ●訪問介護事業所:14カ所/利用者数:延べ25,745人
- ●レンタル・販売利用者数:延べ17,563人
- ●生活支援型訪問サービス:1カ所/利用者数:延べ667人

くらしのサポート事業

くらしのサポート事業部は、7つの事業(モーニングコープ、夕食宅配、店舗ふれあい便、移動店舗、葬祭、住まいのコープ、生活サービス事業)を担っています。組合員の「困りごと」に対し、コープあいちすべての事業と連携し、お役立ちすることを目標に2017年度発足しました。

- ●モーニングコープ利用登録者数/4,200人
- ●夕食宅配利用者数/3,100人
- ●移動店舗車(フレンズ便)停留所数/25カ所
- ●ふれあい便登録者/1,027人

▲モーニングコープの早朝配達

共済事業

CO・OP共済《たすけあい》《あいぷらす》《ずっとあい》の加入件数は、2018年3月20日時点で253,390件です。

2017年度は、コープ上社店・コープ大高インター店に、共済カウンターがオープンしました。地域のみなさんの保障・相談の窓口となっています。

◀コープ日進店共済カウンター

天白文化事業センター

天白文化事業センターでは、文化講座だけでなく、地域のみなさんが気軽に立ち寄ることができる場所となることをめざしています。定期講座46講座(71クラス)の他、ちびっこクッキングやCO・OPスクールなど、幼児から80代まで幅広い方々が利用しています(年間受講者8,200人)。

Diversity 多様な職員の力で未来を拓く

2016年6月に2.1%だった障がい者法定雇用率は2017年6月には3.4%となりました。特に2017年度は障がい者の未就労職場をなくす取り組みをすすめ、共同購入センターのほとんどと店舗および福祉・デイサービス事業所の約半分に障がい者が在籍しています。2018年度は複数配置をすすめていきます。再雇用者の就労に際しては、特に経験を生かした配置を重視しています。また、さまざまな事情に配慮できるように事業所を超えて仕事の内容を組み合わせ、調整するワークシェアリングを試験導入しました。

障がい者雇用の推進

〈雇用人数／49人［特例子会社の9人を含む］〉 2018年3月20日時点

［名東センター］**福留 誠**さん

昨年6月から名東センターで事務業務を担当しています。パソコンが非常に得意で、他の職員は分からないことがあると福留さんに教えてもらっています。

福留さんより

この職場に入って障がいを意識することなく働けていることがありがたいと思っています。時には「人並より自分は仕事をしている」と自信を持てることもあります。

家庭と職場のよりよい関係を

〈子ども参観日 参加者／9人〉

夏休みを利用して親の働く姿を見たり、体験することで親子の交流の機会になっています。職場訪問を通じて、子どもたちは親の仕事の大切さと大変さを知りました。

継続的な職員教育

教育プログラムに沿って、経験年数に応じた職員教育を実施しています。産地工場研修では、直接、生産者やメーカーの生産現場を自分の目で見て、感じることでその商品価値を深く学びます。

いつまでも活き活きと働くことができる環境づくり

〈再雇用人数／74人〉 定時除く 2018年4月時点

買物支援課 **徳元 博美**さん
［再雇用制度で移動店舗車（フレンズ便）業務に着任］

“再チャレンジできる！”定年を迎えた私も活躍できる場があることに胸を躍らせています。「近所のスーパーが閉店して買い物するのが大変。生協さんが毎週来てくれてありがたい。」との言葉もいただいています。

▲2017年5月24日 新入協生対象の産地研修〈於：産直たまごの生産者（有）デイリーファーム〉

変化のうねりの中で…協同組合だからこそできること

2000年に国連で採択された「ミレニアム開発目標（MDGs）」を受け継ぐものとして誕生した「持続可能な開発目標（SDGs）」の大きな特徴は、“誰ひとり取り残さない”ことを明確に掲げている点です。このことは協同組合が大切にしてきた「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という基本的な考え方に重なり合います。待ったなしの環境対策、経済格差の拡大、情報があふれる一方ですすむコミュニケーションの希薄化、孤立化…
変化のうねりの中で協同組合の力が求められています。

2020ビジョンを達成し、さらに持続可能な未来へ…

コープあいち 統括専務理事 森 政広

持続可能な開発目標SDGs

2015年9月、ニューヨーク国連本部において「国連持続可能な開発サミット」が開催され、「我々の世界を変革する持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。そこに盛り込まれているのが、世界を変えるための17の目標「SDGs（エスディージーズ）」です。地球環境や経済活動、人々のくらしなどを持続可能とするために、日本を含むすべての国が2030年までに取り組む行動計画です。17の目標すべてが生協の活動にかかわるものです。私たちも、生協の方針や活動計画に盛り込んでいくことが大切になっています。

2017年度のコープあいちの取り組み

2017年度は、コープあいちの事業と活動をより多くのみなさんに知らせ、広げることを中心にすすめました。

共同購入事業では、組合員の声から商品案内、OCR注文用紙、品ぞろえの改善をすすめ、スマートフォンからの注文もより簡単で便利になりました。さらに、業務用端末（BIT）を導入し、職員の仕事の効率化と組合員への対応力を強めました。

店舗事業では、接遇、サービスの向上など4つの基本を徹底しつつ 、施設改修や組合員のくらしによりそった品ぞろえの改善を積極的にすすめました。

福祉事業では、「生協10の基本ケア」を学び、実践し、介護の質の向上を図ると共に、他の事業と効果的に連携することで総合力を生かす取り組みを強めました。

活動面では、長期的な視点で今行動すべきことを確実にすすめるために、環境政策を見直し、環境学習会、エシカル商品の普及などをすすめました。環境や平和に関するわかりやすい小冊子も発行し、広く活動を紹介しました。

また、復興途上の被災地に対しては、引き続き商品の利用を通じた支援と、岩手を中心に地域活動の支援を続けています。

2020年コープあいち創立10周年に向けて

医療と介護の大改革や増税など、くらしや事業をめぐる環境がめまぐるしく変化する中、生協も事業や活動の中で変化・対応を迫られています。高齢化、少子化、格差の拡大など、くらしが大きく変化する中で、地域の誰もが孤独にならないよう、つながりづくりやたすけあいの取り組みなど、安心してくらせるまちづくりへの貢献が求められています。そのためには、それぞれの地域で、コープあいちがあって良かったと実感される組織づくりが必要です。2020年ビジョンの実現に向けて、組合員、職員が力を合わせてすすめていきます。このサステナビリティレポートをお読みいただいたみなさんの、ご支援ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

編集にあたって

●この報告書は、コープあいちの環境、地域社会への貢献、商品やサービスの安全性確保、品質レベルアップ、消費者・組合員へのサポート、労働慣行や人権への配慮など、1年間の活動全体を紹介するものとして編集しました。

報告書の対象範囲

この報告書はコープあいちの全部局・全事業所および委託先関係団体の環境活動・事業活動をまとめたものです。対象期間は2017年3月21日～2018年3月20日までとしています。なお一部範囲を超えた記述も掲載しています。

発行年月

2018年5月。次回は2019年5月の発行予定です。

インターネットでの関連情報の閲覧について　関連情報はこちら　コープあいち　社会的活動報告　検索

© やなせたかし
コープあいちキャラクター
ほこちゃん

生活協同組合
コープあいち

〒465-8611 愛知県名古屋市名東区猪高町大字上社字井堀25の1
TEL 052-703-1769　FAX 052-703-3387

Waterless Printing Naturally
VEGETABLE OIL INK
FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C014969

●本文には、ユニバーサルデザインの視点に基づいた書体（UDフォント）を使用しています。
●FSC森林認証紙を使用しています。
●揮発性有機化合物（VOC）を含まない植物油100%のノンVOCインキを使用しています。
●有害物質を含む湿し水を使用しない、水なし印刷方式にて印刷しています。
●水性のりを使用した「のり綴じ製本」を採用しています。針金を使用しないため、安全性に優れています。